

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	飯田橋駅周辺基盤整備計画												
計画の期間	令和05年度 ～ 令和06年度（2年間）										重点配分対象の該当		
交付対象	東京都												
計画の目標	飯田橋駅は、鉄道5路線が乗り入れ、幹線道路3路線が交差するなど、都内有数の交通結節点である。 現場は、歩行者動線や広場の整備が不十分であり、歩道橋や地下のコンコースの混雑が常態化してほか、バリアフリーにも課題がある。 このような状況のなか、周辺地域では開発機運が高まっていることから、民間活力を活かし地方自治体と事業主体（独立行政法人都市再生機構）が連携することで、駅周辺の必要な基盤整備を行う。 本計画では、駅を中心とした街とのネットワーク形成やゆとりある空間整備の方向性を示し、交通結節機能の更なる強化を目指すことを目標とする。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	87	A	87	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R5		R6
1	関係自治体や鉄道事業者等の関係者の合意のもと、整備計画を策定する。			
	事業の費用対効果（B/C）を算出する	0単位なし	単位なし	1単位なし
	便益÷費用			
2	飯田橋駅周辺では、周辺開発に伴う施設利用者の増加が見込まれることから、駅前広場や歩道橋（デッキ）の幅員を確保しサービス水準の向上に努める。			
	歩行者動線のサービス水準Aを確保する	26人/㎡・s	人/㎡・s	27人/㎡・s
	1分当たりの交通量（人/分）÷有効幅員（m）≦27人/㎡・分【サービス水準A（27人/㎡・分以下）】 当初現況値は現況幅員、最終目標値は将来幅員			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
※サービス水準については開発による流動人口が増加してもA水準を確保できるようにする												

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
市街地整備事業	A13-001	都市交通	一般	東京都	間接	独立行政法 人都市再生 機構	－	－	都市・地域交通戦略推進 事業	総合計画（全体計画）の策定	千代田区・文京 区・新宿区	■	■				87		策定中
											小計						87		
											合計						87		

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
要素事業の実施状況を東京都が取りまとめ、評価書を作成	令和7年度中
	公表の方法 東京都のホームページに掲載
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	(指標1) 飯田橋駅周辺基盤整備計画の策定 都は、令和5年4月に飯田橋駅周辺の道路、鉄道駅及びコンコース等の都市基盤について、駅周辺のまちづくりと連携し、その充実・強化を図るための指針として、「飯田橋駅周辺基盤整備方針」(以下、方針という。)を策定しており、本社会資本総合整備計画の実施により、令和7年7月に方針を具体化した「飯田橋駅周辺基盤整備計画」(以下、計画という。)を策定した。 また、計画策定に当たり行った検討の中でB/Cの算出を行い、計画に位置付けられた都市基盤を整備することで、整備費用を上回る便益が得られることを確認した。 (指標2) 歩行者動線のサービス水準維持 計画の策定に当たり行った調査・検討において、計画に位置付けられた都市基盤を整備することにより、引き続きサービス水準Aを確保できることを確認した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況 (必要に応じて記述)	
○特記事項 (今後の方針等)	
飯田橋駅周辺では、今後、周辺開発に伴う歩行者流動量の増加が見込まれることから、計画に位置付けられた都市基盤の整備を着実に進め、引き続き歩行者動線のサービス水準Aを確保していく。	

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	便益÷費用		
	最 終 目標値	1単位なし	
	最 終 実績値	1単位なし	
2	1 分当たりの交通量（人/分）÷有効幅員（m）≦27人/m・分【サービス水準A（27人/m・分以下）】 当初現況値は現況幅員、最終目標値は将来幅員		
	最 終 目標値	27人/m・s	今後、飯田橋駅周辺基盤整備計画に位置付けられた都市基盤の整備を実施していくため現時点で効果の発現は計れないが、計画の策定に当たり行った調査・検討において、計画に位置付けられた都市基盤を整備することにより、引き続きサービス水準 Aを確保できることを確認した。
	最 終 実績値	人/m・s	